



帯中の「新制服」から考えたこと

機能性や様々な価値観が浸透し、児童生徒それぞれの個性等への対応のため制服を見直す動きが全国的に広がっています。本校は自由服なのですが、帯中では令和5年度帯山中学校入学生（現6年生）から、新制服となります。上衣はブレザーで、従来の男性体型、女性体型のどちらでも選択が可能だそうです。また、下衣は性別に関係なく、スラックスまたはスカート、ネクタイまたはリボンの選択ができるそうです。



10月下旬に、帯中から6年生に是非見て欲しいということで、新制服の展示がありました。校長室前に展示していましたが、子供たち、特に6年生は興味津々で、「私はスラックスにする。」「リボンとネクタイどっちにしようかな?」など盛り上がりを見せています。

ところで世界各国の男女平等の達成率の順位で示すジェンダーギャップ指数で、日本は146か国中116位だそうです。ジェンダーギャップ指数は、世界経済フォーラムという国際的な団体が調べた男女平等の達成率です。1位はアイスランド、2位はフィンランドと、上位は北ヨーロッパの国が多いようです。どうして日本の順位はこんなに低いのでしょうか?ジェンダーギャップ指数は「経済」「教育」「健康」「政治」の4つの分野のデータをもとにしているそうです。1が完全平等、0が完全不平等を表しているそうです。2022年の日本の指数は、「教育1.000」「健康0.973」「経済0.564」「政治0.061」でした。健康や教育の分野では男女差はほとんどありませんが、仕事で高い賃金がもらえるかといった経済分野では、男女で大きな格差が見えてきます。さらに国会議員や大臣の数など、政治の分野では男女でとても大きな差があります。

この結果、国際社会からは「健康で教育水準の高い女性を育てておいてその力を活用しない『もったいない国』」と言われているそうです。その要因はたくさんあります。職場の管理職は男性が中心で、妊娠・出産を担うのは女性なので、育児は女性の仕事という思い込みが残っていること、保育所やなどの環境整備が遅れていること、仕事と家庭の両立を諦める女性が多いこと…等々たくさん考えられます。

最近の研究結果で分かったもう一つの原因があるそうです。それは「無意識の差別」です。ニューヨークフィルハーモニーで、楽団員を選ぶのに、性別や人種で差別せず実力で選ぼうとオーディションをやってきました。しかし、一向に女性や有色人種が増えません。あるとき、オーディションを受ける人と、審査員の間一枚のカーテンを引いたそうです。すると、女性や有色人種の数ぐんと増えたそうです。研究によると、男性にも女性にもこういう「無意識の差別」があるようです。このような研究結果は116位の日本にも考えさせられるし、発想次第ではよい結果に活かせるそうです。